

【臨床・研究】

介護老人保健施設「寿生苑」入所者の 前期2年間と後期2年間の誤嚥性肺炎 の統計学的検討，及びその予防戦略

こ ばやし ま さ お 木 さ たか し
 ち や はる ひさ
 土 谷 治 久

キーワード：誤嚥性肺炎

要 旨

介護老人保健施設「寿生苑」入所者の前期と後期各々2年間の誤嚥性肺炎発症者数の間には，統計学的に危険率5%で有意差を以って，後期に減少が認められた。かつ両群間の背景因子には，統計学的有意差は認められなかった。前期と異なり，後期においては，以下のことが実施された。即ち，①言語聴覚士の常勤，②嚥下体操の導入，③口腔ケアのより徹底化，④指先パルスオキシメータによる動脈血酸素飽和度測定の導入と全職員による頻回の測定，⑤管理栄養士，給食部門の食物の形態の工夫と迅速な対応，⑥摂食嚥下障害の勉強会や，その実践により，職員の関心度や理解度の向上が認められた。

誤嚥性肺炎予防戦略として，先人の優れた多くの業績を利用するが，効率を上げるため集団でできるもの ready-made medicine と，個別的方法 tailor-made medicine を上手に組み合わせて利用し，trans-disciplinary team approach を推進する。

はじめに

老人の誤嚥性肺炎（誤嚥性窒息も含む）を惹起し易い原因疾患は多数列挙されている中で，脳血管性疾患，認知症，加齢などは摂食嚥下障害をきたす最大の要因となっている。摂食嚥下障害によって生ずる問題は，誤嚥性肺炎による生命の直

接的危険や脱水，低栄養などの医学的諸問題のみならず，口から食べるという人生の大きな楽しみを奪われることなどが挙げられる^{1,2)}。

われわれは介護老人保健施設の限られた能力で，誤嚥性肺炎を予防する方法を統計学的に検討することとした。

対象・方法

この統計では介護老人保健施設「寿生苑」の通常の入所者及び短期入所者を対象とした（ベッド

Masao KOBAYASHI et al.

医療法人寿生会 介護老人保健施設「寿生苑」
 連絡先：〒693-0022 出雲市上塩冶町2319-2